

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 3月 5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673400083
法人名	社会福祉法人曙福祉会
事業所名	グループホーム永喜村
所在地	鹿児島県日置市吹上町永吉14145 (電話) 299-3480
自己評価作成日	平成24年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム永喜村は、平成23年7月、喜楽奈里と村長の家のふたつのグループホームが合併して開設した。

喜楽奈里は、法人母体施設近くの旧旅館を改修して9人1ユニットのグループホームとして平成10年10月にオープンし、もう一つの村長の家は現在の永喜村の隣接地になるが、築80年位の由緒ある大きな民家を改修して平成12年7月、9人1ユニットとしてオープンした。

昼・障子・襖・縁側など、昔ながらの家庭的であったかな雰囲気の中で生活できる事が、当法人のグループホームの誇りであったが、昨今の消防法関連の情勢を鑑み、止むなく旧ホームを惜しみつつ、施設の建て替えに踏み切った。

しかし、家庭的であったかな雰囲気や地域と繋がり続けるというこれまでの方針に何ら変わりはなく、永喜村となった今でもこれまでとおりの理念を引き継いでいる。

永喜村として再スタートしたばかりで、まだまだ軌道にのりきれない部分もあるが、もともと当法人は地域に恵まれ、職員に恵まれ、そして家族さんにも恵まれ、とてもいい環境の中で運営が出来ている。

職員は開設当時から働き続けている人が多く、また地域とも開設時から協力体制が良く、今回の改築もとても喜んで下さった。法人の先陣を切って引っ張ってくれるのがこのグループホームだと、年始め法人代表者からも信頼の厚い言葉があり、永喜村に寄せる期待は大きい。

これからも地域に愛される事業所として頑張っていきたいと皆張り切っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム永喜村は、同敷地内に児童クラブを隣接し、近隣には小学校や商店街がある。地域に伝わる祭りや行事、食文化等、地域文化や利用者の生きてきた価値観等を大切にし、利用者に教わりながら利用者と共に地域文化の継承を心がけている。

利用者と同年代の人と話をする機会を設け、利用者一人一人の思いに寄り添いながら、利用者の自由な暮らしの実践に取り組んでいる。

グループホーム永喜村の母体である、障害者施設との交流を行い、陶芸参加やバーベキューをしたり利用者の外出の機会も多い。

地域の一員として児童クラブを利用している児童、保護者、障がいのある人も含めた地域との交流を大切にし、利用者の能力を引き出し、住み慣れた地域の中で、いつまでも安心して暮らせるように支援している。

グループホームおよび同法人の理事長をはじめ管理者は、利用者や家族、職員一人ひとりを大切にし、地域の中でのグループホームの役割を意識し、常に質の高いサービスの提供を心がけ努力している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	平成20年職員皆で考えた理念を、そのまま永喜村の理念として掲げた。事業所内に掲示し、常に意識しながら、また行事企画実施の際や利用者ケアカンファの時など考え方の指針にしている。	利用者の価値観やこだわりを大切に、利用者のペースでゆっくり地域の中で暮らせるように、職員皆で話し合い永喜村の理念とした。理念を掲示し、意識付け、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	永喜村開設時には、近所の方々75名位多くの皆さんに来ていただき、お披露目会をした。開設後すぐの夏祭りには、皆で参加をし、職員も舞台出演をして、GH永喜村の地域デビューをし、仲間入りをさせていただいた自治会に加入し、回覧板を回したり奉仕作業にも参加し、また食材や日用品購入など地元の商店を利用している。	ホームの近隣に小学校や商店街があり、小学校や地域行事などに参加し、利用者の地域とのつながりを大切にしている。また、ホームの敷地内に児童クラブがあり、日常的に地域の人との交流や世代間交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	それぞれの職員が自分の自治会等で生き生きサロンなどの支援者として活動している。また高齢者学級等の勉強会等に招かれ、講話をすることもある。旧GHの頃には、近所の方を招いて認知症サポーター養成講座も開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの会議における成果としては、生き生きサロンとの交流、地元自治会の防災組織への仲間入り、消火栓の設置などがある。最近では、一緒に敬老祝賀会を楽しんだり、消防署の方に来ていただき、防災についての意識を高めることなどができた。	2ヶ月に1回開催され、利用者の状況や運営の報告を行い、参加者に認知症についての理解を深めてもらっている。また、参加者に助言や協力をいただき、サービスの向上に活かしている。メンバーには、地域の有識者や自治会長、家族の代表、小学校の先生をはじめ、行政等の職員も参加してもらい、地域に根差したホームづくりを心がけ取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加していただくことはもとより、開設お披露目会には市長はじめ副市長等にも参加いただいた。また更新手続きや事故報告書等の書類提出の際には、直接担当者と話をし、助言や意見をいただいている。	事務手続きや利用者の家族を含めた問題について相談や状況を報告し、情報交換や助言をいただいている。施設運営等に関する法改正や権利擁護についての相談など日頃から市町村との連絡や連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月に一回開催し、勉強会をしている。また、ベッドからの転落、無断外出など怪我や事故、生命に関わる恐れのある利用者の状況においては、密に話し合いを行い、たとえば鈴をつける、ベッドを布団に変える、ベッド下に布団を置くなど、その時々に応じた工夫をしている。	身体拘束について3か月に1回勉強会を行い、利用者の状況に応じた身体拘束をしないケアの実践を行っている。居室の窓は広窓であり自由にテラスや庭に出入りすることができるなど閉塞感を感じさせないようにしている。職員は、利用者の行動や声に耳を傾け、利用者の心理状態に配慮し、頻回に外出傾向のある利用者には、近隣住民にも協力をお願いしながら見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回以上勉強会を開き、高齢者虐待についての意識を高めている。また職員については、仕事上或いは私的にもストレスのない状態で心身ともに体調万全で業務できるよう、お互い切磋琢磨しながら、職員間の融和、連携に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年度は実際に成年後見制度を利用している利用者さんがおり、いい勉強をさせていただいた。今後も年一回ぐらいは勉強会をし、必要に応じて、助言提案ができるぐらいの知識を持っていたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をかけて利用料金やサービス内容等について説明をしている。また、今回の異動に関しては、1年ぐらいかけて新料金等について説明を行い、さらには他の施設等の紹介を含め比較説明をするなどし、個別の面談も行った。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や面会、面談などの際に意見や要望等ないか聞いている。またご意見箱等の設置や運営推進会議の委員さんの紹介も機関紙でしている。利用者さんとは日々の暮らしの中で常に意向や希望を聴いているが、いづれにおいても実際には運営に関しての意見はなかなかいただけていない。	重要事項説明書に相談窓口を記載している。また、面会簿に相談や苦情などを記載して頂くようにし、日頃から家族が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。玄関に意見箱を設置し利用者やご家族の意見を反映したケアの実践に努めている。職員が苦情や要望などを把握した時には、相談苦情ノート、連絡ノートに記載し、職員会議で話し合い、情報の共有化を図り、速やかな対応を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今回の新しいGHの建設にあたっては、職員の意見を広く聴き、参考にしてきた。また年度初めには、運営等に関する意見要望をアンケートにて聞き、生かしている。	理事長および管理者は、職員が意見を言いやすいような雰囲気づくりを心がけ、悩みがありそうな職員には個別面談を行うなど、職員の意見が反映できるように努力している。また、職員全員が他のグループホームの見学交流を行う機会を設け、質の高いサービスを提供しつつ職員が安心して仕事を続けられるような環境づくりを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、GHによく足を運び、あるいは電話等で、職員の勤務状況や行事をはじめ日々の暮らしの出来事などについてよく話を聴き、現状を把握している。また助言や意見、ねぎらいの言葉など職員と親しく話し合いができる関係である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、内外の研修に力を入れている。外部研修については、情報を探りながら、平均にかつ職員に応じた研修の参加を促している。また内部研修においては、自主勉強や研修報告等を通じて勉強する機会を多くしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国GH協会、県GH協会、地区GH連協さらに、市GH連絡会に加入をし、研修など参加をしている。またおおよそ一年に1回程度他GHの視察研修に全職員参加している。また近隣のGHとは、空きの状況や利用者さんの紹介或いは運営、業務上の相談などしあっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後の時期には、努めて本人と多く顔を合わせることに心がけ、たとえば今回入所された方には、入所前、2回ほどホームに遊びに来ていただいた。入所されてからは、尚密に本人と関わり、表情、しぐさ、本人の言われることに耳を傾け、本人を知ると同時に顔を覚えてもらうこと等なじみの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込みを受けるときの不安や葛藤の思い、そして実際入所になった時の安堵感とまた不安な思いなど、揺れ動くその時々の方々の家族の気持ちを丁寧に聴きたいと思っている。また本人の思いはどうなのかも丁寧に探りながら、家族と一緒に本人の安心につなげていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けてもすぐに入所できるケースはほとんどなく、その現状に応じ、ほかのサービスや事業所等の紹介を含め、本人と家族の「今」を現実的にも精神的にも支えることができればという思いで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、できるだけ本人が知識や腕前、個性といったような力を発揮できる場面を作り、また一方では、できなくなったことには目立たせずさりげなく支援することを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係はどうか、また家族さん同士の関係はどうかなどまずしっかり踏まえた上で、対応をしている。かねての面会の時などはできるだけ嬉しいことだけを伝え、本人家族職員一緒に喜ぶ雰囲気を作り、また内容によっては誰がどなたにどの手段で伝えるかなど慎重に対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医、行きつけの美容院、お寺、通いなれたお店など、できるだけ本人が通っていたところに行くようにしている。またお祭りや歳の市など昔からの地域の行事にも参加し、なじみの友人に会うことも多い。散歩やお出かけをすることでなじみの風景や人との出会いが多くあると思っている。	地域で行われる行事には積極的に参加し、利用者と地域の人との関わりが継続できるように心がけている。また、面会、手紙や電話の支援、なじみの店への買い物などの支援を行い、馴染みの人や場との関係性の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の相性を把握し、食席や行事の時のテーブル、車に乗る時のシート、お風呂に入る時の順番、歯磨きやトイレへの声掛けなど様々なことに配慮して行っている。利用者さん同士、声掛け合い、助け合い、慰め合い、笑いあっている姿をよく見かける。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や特養へ移るため退所になった場合など職員はよく足を運んでいる。また退所になってから家族からの相談等も引き続き受けたりする。異動に際しては、情報提供書は勿論口頭でも本人の状況について詳しく伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護サービス計画を立てる際はもちろん、日々の暮らしの中で、「どうしたいか、どう思っているか」など常に尋ねながら行っている。また言葉で言えない方には、どういったときにいい顔をしているか、笑っているか、心地よさそうかなどの視点で行っている。	日頃から利用者やご家族の声に耳を傾け、体調や希望に応じた支援を心がけている。また、連絡ノートを活用し情報の共有化を図り、出来るだけ利用者やご家族の希望に添えるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族および本人から或いはケアマネージャー等からこれまでの経過を丁寧に聴いている。また入所後もその時々で、本人、家族、近隣の人など馴染みの人から話を聴く場合も多い。そしてそれらを今の生活に大いに生かせると思っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人、起きる時間から寝る時間まで過ごし方はそれぞれに違い、また日によっても違う。食事の時間をはじめ暮らし方を画一的にせず、その人のその日の状況に合わせた援助を行っている。夜勤者から日勤者へ、或いは前日前々日の状況など記録と申し送りを確実に行うようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には、本人に話を聴き、職員全員でケアカンファをし、さらに主治医の意見をいただき、家族と一緒に話し合いをしている。また1か月ごとに評価を行い、職員全員でそれらを共有し、確認している。	利用者ごとに担当制を設け、利用者について把握している。毎月、職員全員でモニタリングを行い、職員全員が利用者の状態について把握できるようにし、情報の共有を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、出来事を客観的に書くことと、できるだけ本人の言葉で書くことなどに気を付けている。業務に入る前に記録に目を通すことや、介護計画の見直しにおいては、記録を確認しながら評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療に関しては、ホームとしての通院援助のほか、かかりつけ医の往診などをいただいている。また入所前、デイサービスを利用していた方に対して、引き続き利用ができるよう事業所と調整を行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からのなじみの店、病院、お寺、学校、或いは伝統的なお祭りや市そして学校行事や地域の運動会、文化祭、駅伝その他いろいろな場所に、催しに出かけている。またホームに来ていただくことも大歓迎である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続していただくことを基本としている。また緊急時や外科、歯科、眼科そして認知症専門医等については、それぞれあらかじめ或いはその都度決めてもらっている。	本人や家族の意向に沿い、入所前から利用しているかかりつけ医の受診など継続医療を支援している。また、利用者や家族の状況に応じて、通院支援を行い、連絡帳を活用し、情報の共有化を図るなど看護師が中心となり健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はGH開設時からの職員で、ほかの職員からの信頼も厚い。何かあったときは、すぐに看護師に連絡する体制にあり、主治医への上申、受診等につなげている。また今年になって看護師をもう一名配置したことにより、看護の体制がより充実してきた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供書はもちろん、家族とともに立ち合い、病院側の説明を聞いたり、聞き取りを受けるなどしている。また入院中は、職員はちょくちょく面会し、また都度、師長さんや主治医、リハの担当さんに経過や退院の目途等について話を聞きに行っている。またDrや師長さんにはホームの行事や法人の催しに来ていただき、いい関係が築けるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、入所時と介護サービス計画見直しの面談時に確認をしている。また状態が変化したり、重度化してその状況にある時は、職員間でも密に話し合いを行うが、家族、主治医とも頻回に話し合いをして、本人、家族にとって一番いい方法を一緒に考えている。	重度化や看取りに対する対応について指針を定め、入居時に家族に説明し同意をもらっている。また、利用者の身体状況に応じて、本人や家族、かかりつけ医と相談し、出来るだけ利用者や家族の希望に添えるように努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法研修、普通救命講習に参加し、またそれを実技を含め、全職員に復命講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、水害、地震など想定しての防災訓練を月1回行っている。また先日は消防署立会の訓練も行った。自治会の方に来ていただいたので、設備の説明、避難の経路などの確認も前GHではしていたので、新しいGHでも計画中である。</p>	<p>防火扉や非常通報装置を設置し、毎月、夜間体制での避難訓練や消火訓練を行うとともに、非常災害時の必要な備品の管理を行い、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。これまで地域住民の災害訓練への参加はなく、地域住民と共に防災訓練を検討中である。</p>	<p>防災対策への意識は高く訓練を頻回に行っているが、今後は、地域住民にも訓練への参加を呼び掛け、地域住民と共に防災訓練を行うことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人と人との当たり前の接し方、目上の人としての敬いの気持ち、認知症があってもなるべく感じさせないようにさりげない援助・・・など職員皆、基本的でかつとても大切なことと認識して努力をしている。	事務所に個人情報の保護方針を掲示し、記録物等は外来者の目に触れないように棚に保管している。利用者への日頃の声かけについて、個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。居室やお風呂場、トイレなどすだれを利用したり、ドアの開閉などプライバシーに配慮し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細かなことと言えば、どの洋服を着るかとか、今日はお風呂はどうするか、昼寝をしたいか起きていたいかなど、お出かけするか留守番するか、お茶かコーヒーか・・・などなど、本人が一番いい過ごし方を、その時々で考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、寝る時間、起きる時間など時間は設定していない。利用者さんのその時々体調や気分によって、臨機応変に対応している。ただ安全かつ安心して暮らしていただくためには、限界もあるかな。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者さんのそれまでの身だしなみやおしゃれを継続できるよう、髪型、洋服、スカーフほかアクセサリなどその人らしくあるようにしている。また寝癖や目やに、食べこぼし、尿臭などないように最大限気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の場面は最も利用者さんが力を発揮できる場でもあり、また楽しみな場である。野菜の下ごしらえや、味見、盛り付け、茶碗洗い、お盆拭き、台拭き、或いは献立を考えたりと色々な場面で一緒に行っている。また一緒にできなくても料理の匂い、音などを一緒に感じてもらえたらいいと思っている。	味噌、そば、蒟蒻、もちつき、漬物等、季節に応じた食材や料理の提供を心がけ、利用者に教わりながら地域に伝わる料理を提供している。また、天気の良い日は同法人の公園で食事をしたり、児童クラブの子ども達と食事をするなど食事を楽しめるような工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは法人栄養士の献立を参考にしている。摂取量や水分量については、毎食確認をし、体調等も考慮しながら、一日をトータルして考えている。また本人の状態により、食事の形態は都度食べやすいように変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また定期的にポリドント消毒も行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに座り、通気性のいいパンツで過ごすことができれば一番。その当たり前で普通なことを基本に置きつつ、昼と夜でも違うし、冬と夏でも違う、風邪をひいている時と元気な時とも違う、お出かけの時、何かに夢中になっている時、その時々に合わせて支援を行っている。	一人ひとりの生活リズムや排泄パターンに合わせ、トイレ誘導やさりげなく声かけを行っている。トイレの手すりは平たんなものにし、トイレの中にポータブルトイレも設置するなど、利用者の能力や体型に応じて安心して排泄ができるように対応している。排泄後は温めたおしりふきを利用するなど、利用者が利用者のペースで気持ちよく排泄が行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の面では、ヨーグルトなどの乳製品、お芋などの繊維ものをおやつや食事にとりいれることや、お腹の運動に関しては、散歩、マッサージ、車に揺られることなども効果がある。また、その機を逸せず、タイミングよくトイレに座ることなども大切。排便間隔や排便前の様子観察などを丁寧に行い、自然な排便ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴がゆっくりとくつろげて気持ちのいいものであるようにと支援している。またできるだけ毎日入りたい人、あまり好まない人それぞれに合わせながらも、程よい間隔で入浴してもらっている。時間帯については、安全面への配慮が優先してしまうことも。	介護度の高い人も安心して入浴を楽しめるように、リフトも利用できる浴槽になっている。基本的な入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望や体調に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人なりの生活習慣に応じたリズムがあり、昼寝をする人、しない人、午前中ゆっくりしたい人、食後横になる人など様々、また体調や行事などによってももちろん違う、その時々状況に合わせて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、職員誰でも見ることができるようにファイルしてある。またケアカンファの際、確認をする。変更があった場合など看護師より報告し、周知している。介護職も利用者さんがどんな病気を持っており、どんな薬を飲んでいるかおおよそ知っておく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんが、どんなことが得意で、何ができるのか知り、日々の暮らしの中で腕前発揮や出番を作っている。みそづくりコンニャクづくりそばづくりや地突き唄昔の米づくりなど昔ながらの伝統を復活させること等にも力を入れている。。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域や学校の運動会、文化祭など地域の様々な行事に出かけている。また桜の花見、コスモス見学、紅葉狩りなど季節を楽しんでいる。法事やお墓参りなど家族が行くことが多いが、ホームで送迎をしたこともある。地域の生き生きサロンへ行かれたこともある。	敷地の庭は広く、各居室からテラスや庭に自由に出入りでき、自由で開放的な暮らしを支援している。車椅子の方も天気の良い日は外気浴や買い物、ドライブ、お寺参り、公園など戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣いを持てる人には持ってもらっているが、現在数人。持つことで不安になったり不安定になる方もいる。買い物や外出時には、小遣いを持っていただき、飴玉などのおやつを買ったりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>居室に電話を引いている人が3人、自分ではかけられなかったり、とれなかったりだが、家族との会話を楽しんでいる。また他の方もホームの電話を使い、話をしたり、年賀状が来たら一緒に読んで、喜び、また手紙を書いて送ることもある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間や食堂、廊下などにはソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。また食席や台所のカウンターは、お茶を飲んだり、遊んだり話をしたりするいいスペースになっている。ホーム内には季節の草花を絶やさず、また静かにBGMを流すことなどに心がけている。</p>	<p>施設の入り口は昔ながらの檜があり庭には井戸があり、敷地が広い。居室の外にはテラスがあり、共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや廊下は思い思いにくつろぐことができるようにソファが設置してある。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、居心地よい空間となっている。行事等催しがある時は、2ユニットが合同で参加できるように間仕切りが外せるようになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホーム内には、自由に腰かけられるソファや椅子があちこちにあり、利用者さん同士の相性やその日の気分によって、くつろぐ空間を変えたりしている。また特定の決まった場所を好む方もあり、それぞれに応じた居場所づくりをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいGHになってから、残念ながら画一的な空間になりがちで、工夫をしているところだが、タンスや写真、椅子など馴染みのものをおき、安全に居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室の窓は広く、床は畳とフローリングの両方を取り入れ、使い慣れた家具や寝具を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、本人にもわかりやすいように、低い目線のところに表札を置き、また目印になるものを置いたりしている。またトイレもわかりやすい表示を工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	平成20年職員皆で考えた理念を、そのまま永喜村の理念として掲げた。事業所内に掲示し、常に意識しながら、また行事企画実施の際や利用者ケアカンファの時など考え方の指針にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	永喜村開設時には、近所の方々75名位多くの皆さんに来ていただき、お披露目会をした。開設後すぐの夏祭りには、皆で参加をし、職員も舞台出演をして、GH永喜村の地域デビューをし、仲間入りをさせていただいた自治会に加入し、回覧板を回したり奉仕作業にも参加し、また食材や日用品購入など地元の商店を利用している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	それぞれの職員が自分の自治会等で生き生きサロンなどの支援者として活動している。また高齢者学級等の勉強会等に招かれ、講話をすることもある。旧GHの頃には、近所の方を招いて認知症サポーター養成講座も開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの会議における成果としては、生き生きサロンとの交流、地元自治会の防災組織への仲間入り、消火栓の設置などがある。最近では、一緒に敬老祝賀会を楽しんだり、消防署の方に来ていただき、防災についての意識を高めることなどができた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加していただくことはもとより、開設お披露目会には市長はじめ副市長等にも参加いただいた。また更新手続きや事故報告書等の書類提出の際には、直接担当者と話し、助言や意見をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月に一回開催し、勉強会をしている。また、ベッドからの転落、無断外出など怪我や事故、生命に関わる恐れのある利用者の状況においては、密に話し合いを行い、たとえば鈴をつける、ベッドを布団に変える、ベッド下に布団を置くなど、その時々に応じた工夫をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回以上勉強会を開き、高齢者虐待についての意識を高めている。また職員については、仕事上或いは私的にもストレスのない状態で心身ともに体調万全で業務できるよう、お互い切磋琢磨しながら、職員間の融和、連携に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年度は実際に成年後見制度を利用している利用者さんがおり、いい勉強をさせていただいた。今後も年一回ぐらいは勉強会をし、必要に応じて、助言提案ができるぐらいの知識を持っていたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をかけて利用料金やサービス内容等について説明をしている。また、今回の異動に関しては、1年ぐらいかけて新料金等について説明を行い、さらには他の施設等の紹介を含め比較説明をするなどし、個別の面談も行った。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や面会、面談などの際に意見や要望等ないか聞いている。またご意見箱等の設置や運営推進会議の委員さんの紹介も機関紙でしている。利用者さんとは日々の暮らしの中で常に意向や希望を聴いているが、いづれにおいても実際には運営に関しての意見はなかなかいただけていない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今回の新しいGHの建設にあたっては、職員の意見を広く聴き、参考にしてきた。また年度初めには、運営等に関する意見要望をアンケートにて聞き、生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、GHによく足を運び、あるいは電話等で、職員の勤務状況や行事をはじめ日々の暮らしの出来事などについてよく話を聴き、現状を把握している。また助言や意見、ねぎらいの言葉など職員と親しく話し合いができる関係である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、内外の研修に力を入れている。外部研修については、情報を探りながら、平均にかつ職員に応じた研修の参加を促している。また内部研修においては、自主勉強や研修報告等を通じて勉強する機会を多くしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国GH協会、県GH協会、地区GH連協さらに、市GH連絡会に加入をし、研修など参加をしている。またおおよそ一年に1回程度他GHの視察研修に全職員参加している。また近隣のGHとは、空きの状況や利用者さんの紹介或いは運営、業務上の相談などしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後の時期には、努めて本人と多く顔を合わせることに心がけ、たとえば今回入所された方には、入所前、2回ほどホームに遊びに来ていただいた。入所されてからは、尚密に本人と関わり、表情、しぐさ、本人の言われることに耳を傾け、本人を知ると同時に顔を覚えてもらうこと等なじみの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込みを受けるときの不安や葛藤の想い、そして実際入所になった時の安堵感とまた不安な思いなど、揺れ動くその時々家族の気持ちを丁寧に聴きたいと思っている。また本人の想いはどうなのかも丁寧に探りながら、家族と一緒に本人の安心につなげていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けてもすぐに入所できるケースはほとんどなく、その現状に応じ、ほかのサービスや事業所等の紹介を含め、本人と家族の「今」を現実的にも精神的にも支えることができればという思いで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、できるだけ本人が知識や腕前、個性といったような力を発揮できる場面を作り、また一方では、できなくなったことには目立たせずさりげなく支援することを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係はどうか、また家族さん同士の関係はどうかなどまずしっかり踏まえた上で、対応をしている。かねての面会の時などはできるだけ嬉しいことだけを伝え、本人家族職員一緒に喜ぶ雰囲気を作り、また内容によっては誰がどなたにどの手段で伝えるかなど慎重に対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医、行きつけの美容院、お寺、通いなれたお店など、できるだけ本人が通っていたところに行くようにしている。またお祭りや歳の市など昔からの地域の行事にも参加し、なじみの友人に会うことも多い。散歩やお出かけをすることでなじみの風景や人との出会いが多くあると思っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の相性を把握し、食席や行事の時のテーブル、車に乗る時のシート、お風呂に入る時の順番、歯磨きやトイレへの声掛けなど様々なことに配慮して行っている。利用者さん同士、声掛け合い、助け合い、慰め合い、笑いあっている姿をよく見かける。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や特養へ移るため退所になった場合など職員はよく足を運んでいる。また退所になっても家族からの相談等も引き続き受けたりする。異動に際しては、情報提供書は勿論口頭でも本人の状況について詳しく伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護サービス計画を立てる際にはもちろん、日々の暮らしの中で、「どうしたいか、どう思っているか」など常に尋ねながら行っている。また言葉で言えない方には、どういったときにいい顔をしているか、笑っているか、心地よさそうかなどの視点で行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族および本人から或いはケアマネージャー等からこれまでの経過を丁寧に聴いている。また入所後もその時々で、本人、家族、近隣の人など馴染みの人から話を聴く場合も多い。そしてそれらを今の生活に大いに生かせると思っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人、起きる時間から寝る時間まで過ごし方はそれぞれに違い、また日によっても違う。食事の時間をはじめ暮らし方を画一的にせず、その人のその日の状況に合わせた援助を行っている。夜勤者から日勤者へ、或いは前日前々日の状況など記録と申し送りを確実に行うようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には、本人に話を聴き、職員全員でケアカンファをし、さらに主治医の意見をいただき、家族と一緒に話し合いをしている。また1か月ごとに評価を行い、職員全員でそれらを共有し、確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、出来事を客観的に書くことと、できるだけ本人の言葉で書くことなどに気を付けている。業務に入る前に記録に目を通すことや、介護計画の見直しにおいては、記録を確認しながら評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療に関しては、ホームとしての通院援助のほか、かかりつけ医の往診などをいただいている。また入所前、デイサービスを利用していた方に対して、引き続き利用ができるよう事業所と調整を行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からのなじみの店、病院、お寺、学校、或いは伝統的なお祭りや市そして学校行事や地域の運動会、文化祭、駅伝その他いろいろな場所に、催しに出かけている。またホームに来ていただくことも大歓迎である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続していただくことを基本としている。また緊急時や外科、歯科、眼科そして認知症専門医等については、それぞれあらかじめ或いはその都度決めてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はGH開設時からの職員で、ほかの職員からの信頼も厚い。何かあったときは、すぐに看護師に連絡する体制にあり、主治医への上申、受診等につなげている。また今年になって看護師をもう一名配置したことにより、看護の体制がより充実してきた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供書はもちろん、家族とともに立ち合い、病院側の説明を聞いたり、聞き取りを受けるなどしている。また入院中は、職員はちよくちよく面会し、また都度、師長さんや主治医、リハの担当さんに経過や退院の目途等について話を聞きに行っている。またDrや師長さんにはホームの行事や法人の催しに来ていただき、いい関係が築けるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、入所時と介護サービス計画見直しの面談時に確認をしている。また状態が変化したり、重度化してその状況にある時は、職員間でも密に話し合いを行うが、家族、主治医とも頻回に話し合いをして、本人、家族にとって一番いい方法を一緒に考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法研修、普通救命講習に参加し、またそれを実技を含め、全職員に復命講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、水害、地震など想定しての防災訓練を月1回行っている。また先日は消防署立会の訓練も行った。自治会の方に来ていただいで、設備の説明、避難の経路などの確認も前GHではしていたので、新しいGHでも計画中である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人と人との当たり前の接し方、目上の人としての敬いの気持ち、認知症があってもなるべく感じさせないようなさりげない援助・・・などなど職員皆、基本的でかつとても大事なことと認識して努力をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細かなことで言えば、どの洋服を着るかとか、今日はお風呂はどうするか、昼寝をしたいか起きていたいのか、お出かけするか留守番するか、お茶かコーヒーか・・・などなど、本人が一番いい過ごし方を、その時々で考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、寝る時間、起きる時間など時間は設定していない。利用者さんのその時々体調や気分によって、臨機応変に対応している。ただ安全かつ安心して暮らしていただくためには、限界もあるかな。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者さんのそれまでの身だしなみやおしゃれを継続できるよう、髪型、洋服、スカーフほかアクセサリーなどその人らしくあるようにしている。また寝癖や目やに、食べこぼし、尿臭などないように最大限気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の場面は最も利用者さんが力を発揮できる場でもあり、また楽しみな場である。野菜の下ごしらえや、味見、盛り付け、茶碗洗い、お盆拭き、台拭き、或いは献立を考えたりといろんな場面で一緒に行っている。また一緒にできなくても料理の匂い、音などを一緒に感じてもらえたらいいと思っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは法人栄養士の献立を参考にしている。摂取量や水分量については、毎食確認をし、体調等も考慮しながら、一日をトータルして考えている。また本人の状態により、食事の形態は都度食べやすいように変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また定期的にポリデント消毒も行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに座り、通気性のいいパンツで過ごすことができれば一番。その当たり前で普通なことを基本に置きつつ、昼と夜でも違うし、冬と夏でも違う、風邪をひいている時と元気な時とも違う、お出かけの時、何かに夢中になっている時、その時々合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の面では、ヨーグルトなどの乳製品、お芋などの繊維ものをおやつや食事にとりいれることや、お腹の運動に関しては、散歩、マッサージ、車に揺られることなども効果がある。また、その機を逸せず、タイミングよくトイレに座ることなども大切。排便間隔や排便前の様子観察などを丁寧に行い、自然な排便ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴がゆっくりとくつろげて気持ちのいいものであるようにと支援している。またできるだけ毎日入りたい人、あまり好まない人それぞれに合わせながらも、程よい間隔で入浴してもらっている。時間帯については、安全面への配慮が優先してしまうことも。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人なりの生活習慣に応じたリズムがあり、昼寝をする人、しない人、午前中ゆっくりしたい人、食後横になる人など様々、また体調や行事などによってももちろん違う、その時々状況に合わせて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、職員誰でも見ることができるようにファイルしてある。またケアカンファの際、確認をする。変更があった場合など看護師より報告し、周知している。介護職も利用者さんがどんな病気を持っており、どんな薬を飲んでいるかおおよそ知っておく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんが、どんなことが得意で、何ができるのか知り、日々の暮らしの中で腕前発揮や出番を作っている。みそつくりコンニャクつくりそばつくりや地突き唄昔の米つくりなど昔ながらの伝統を復活させること等にも力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域や学校の運動会、文化祭など地域の様々な行事に出かけている。また桜の花見、コスモス見学、紅葉狩りなど季節を楽しんでいる。法事やお墓参りなど家族が行くことが多いが、ホームで送迎をしたこともある。地域の生き生きサロンへ行かれたこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	小遣いを持てる人には持っていたが、現在数人。持つことで不安になったり不安定になる方もいる。買い物や外出時には、小遣いを持っていただき、飴玉などのおやつを買ったりしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	居室に電話を引いている人が3人、自分ではかけられなかったり、とれなかったりだが、家族との会話を楽しんでいる。また他の方もホームの電話を使い、話をしたり、年賀状が来たら一緒に読んで、喜び、また手紙を書いて送ることもある。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居間や食堂、廊下などにはソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。また食席や台所のカウンターは、お茶を飲んだり、遊んだり話をしたりするいいスペースになっている。ホーム内には季節の草花を絶やさず、また静かにBGMを流すことなどに心がけている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ホーム内には、自由に腰かけられるソファや椅子があちらこちらにあり、利用者さん同士の相性やその日の気分によって、くつろぐ空間を変えたりしている。また特定の決まった場所を好む方もあり、それぞれに応じた居場所づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいGHになってから、残念ながら画一的な空間になりがちで、工夫をしているところだが、タンスや写真、椅子など馴染みのものをおき、安全に居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、本人にもわかりやすいように、低い目線のところに表札を置き、また目印になるものを置いたりしている。またトイレもわかりやすい表示を工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない